**菊池渓谷の植物多様性**

菊池渓谷は植物の多様性で有名。4kmの渓谷の端から端まで標高差があるため、気候条件は多岐にわたる。ビジターセンターのある渓谷の下端は標高500mほどだが、渓谷の始まりとされる地点は標高約800m。渓谷を登っていくと、植生は常緑広葉樹からケヤキやカエデなどの落葉広葉樹へ、そして寒冷な上流部ではブナ林を主とした森林へと徐々に変化していくのが分かる。

 ビジターセンター周辺の暖かい森でよく見られる樹木には、濃い緑色の葉は香りがよく、光沢があり、3本の独特な葉脈を持っている**ヤブニッケイ**（Cinnamomum yabunikkei）、硬い革質の葉の裏側が白っぽいことからその名がついた**ウラジロガシ**（Quercus salicina）、3月から4月に赤い無花果の花を群がりで咲かせる**イスノキ**（Distylium racemosum）などがある。

 散策路でよく目にするのは、川辺の湿潤な環境に生育し、渓谷内の木の枝や岩に20cmほども成長する糸状の明るい緑色の**キヨスミイトゴケ**（Barbella flagellifera）と、湿った岩を好み、大きなタバコ葉に似た葉を持つ**イワタバコ**（Conandron ramondioides）である。イワタバコは夏に薄紫色の星形の花を咲かせる。